



新年あけましておめでとうございます。皆さんそれぞれによいお歳をお迎えのことと思います。二十一世紀に入り、早くも四年目を迎えました。二十一世紀は観光関連の産業の時代と言われ、われわれが関わる事業が社会の注目を受けることが期待されています。ところが昨今の世界の情勢は、大変に厳しいものがあります。昨年は、ようやくその前年に起こった九一一事件の後遺症から脱却して、サクサクと進むべき頃、イラク戦争が始まってしまいました。引き続き4月からSARS禍が世界中を震撼させる事態になりました。幸い我が国への上陸は食い止めたものの、それに続く地球規模の異常気象は涼しい夏をもたらし、

人々の観光に向けた意欲を冷やませるなど、まことに厳しい一年でありました。会員の皆さんの中には、意図しない苦労を強いられた方も居られることでしょう。本年こそと期待する周囲の情勢はどんなものでしょうか。昨年から国を挙げて力を入れている「ビジット ジャパン キャンペーン」は、日本人の海外旅行と外国人の日本旅行との極端な不均衡を是正するものが契機になっていますが、わが国の地域振興、国際相互理解の促進など、たいへん意義のある取り組みです。いまさらながらではありますが、総理大臣が先頭に立ってインバウンドの旗を振るといって、これまでは考えられなかった動きとなっています。もともとわが国には、自然・歴史・文化などを豊富に持ちながら、この約四十年間は、それらから外国の皆さんに見出し、理解し、味わっていただき、国の産業の振興に役立たせる努力を忘れてきてしまいました。

われわれ観光関連業界に身を置く者にとっては、願ってもないチャンス到来と考えるべきでしょう。それぞれに状況は異なっても、こうした気運をしっかりと受けとめて、自ら関わる事業の発展を期することはもちろん、わが国の閉塞感が漂う社会経済の活性化をさせる、その大きな任務を果たすこととなります。

観光事業の概念も変化しホスピタリティビジネスとして広く捉えるべき時代に入ったと思います。立教大学の校友の多くがこれらの業界で活躍し、それぞれ重要な立場を担っています。大学からは、こうした社会のニーズに対応して、次の時代を担う人材が次々と送り出されてきます。そうした仲間が、日本中いや世界中のネットワークで活躍することは大変に素晴らしい、われわれの立教観光クラブの誇りとすると。皆さんの今年のご活躍を祈念し、立教観光クラブの活動に引き続きご支援をお願いします。

立教観光クラブ会長 清水 誠

立教観光クラブ

第 86 号
平成 16 年 2 月 25 日

発行人 清水 誠
編集人 杉本 美樹枝
印刷 株式会社 北斗社
発行所 〒352-8558 埼玉県新座市北野1丁目
立教大学観光学部
橋本研究室内
TEL.048(471)7452

— 押見総長との新春対談 —

「これからの観光と教育を考える」

出席者：立教大学総長 押見 輝男 (昭49文・大学院)
観光クラブ会長 清水 誠 (昭41経)
同 副会長 杉本 美樹枝 (昭39社)
同 副会長 荒井 詔二郎 (昭42経)

はじめに
杉本・・・昨年の観光クラブの総会においてご出席いただいた押見総長の構想を伺って立教大学の将来展望に大きな期待を抱くとともに、観光もこれまでの楽しいとか物見遊山とかから変化しており、心を癒すとか何か役立つことをして精神的な満足を得るとか、感動を共有するとかが大事だと考えています。そこで、観光業界のOBの集まりである観光クラブと大学とのコラボレーションなどについて、押見総長にその辺りの積極的な展開のお話が伺えたらとお願いしたところ本日の座談会が企画され実現したものです。

今、学生に求められているもの
押見・・・総長に就任して一年半が経ち、漸く考えが固まってきた。立教はどういう学生を育てたいかという点、自分の殻に閉じこもらず他者の方に出ていって、自分を活かし他者も活かしながら状態を変えていく、新しい関係を創っていく、具体的に云うとそういう人間を育てるのがキリスト教の精神だと考える。観光と

昭和四三年以来、遠ざかっていた箱根駅伝に復活出場を支援する後援会組織「立教箱根駅伝プロジェクト」が発足した。今年、箱根駅伝は八〇周年の記念大会にあたり、予選会が昨年十月十八日、箱根芦ノ湖畔で開催された。立教陸上競技部長距離チームは十一名の選手をエントリーして、二年ぶりの出場となった。箱根駅伝プロジェクトメンバーは、箱根仙石原の姥子温泉に宿をとり、前夜から駅伝の話題で盛り上がりました。朝早くから、プロジェクトのメンバーや陸上競技部OB、地元立教会のサポーターは、スタート地点の湖尻林間駐車場周辺に陣取り、応援旗を翳して本番さながら箱根で行われる予選会をやや興奮気味に待った。そして九時三〇分、四百名余の選手が一斉にスタートし、「最初はスピードを押さえていく」とコーチの言う通り選手がなかなか来ない。でもやっとなら、集団が見えたとき、応援の小旗を振りながら「がんばれ立教」と全員で大きな声援を送った。

出場三七チーム中、二三位と残念な結果に終わりましたが、最近では最も良い成績であったことと、一年生が上位を占めたことと、来以降に期待が持てる結果となった。選手の皆様にはご苦労様でした。(H)

残念な結果に終わりましたが、最近では最も良い成績であったことと、一年生が上位を占めたことと、来以降に期待が持てる結果となった。選手の皆様にはご苦労様でした。(H)

残念な結果に終わりましたが、最近では最も良い成績であったことと、一年生が上位を占めたことと、来以降に期待が持てる結果となった。選手の皆様にはご苦労様でした。(H)

観光事業にたづさわる立教大
学校友相互の親睦をはかり、
わが国の観光事業発展のため
いささかなりとも寄与したい。

藤棚
私の提案

感謝と真心でご奉仕。Ⓜ 東洋観光グループ

ひろしま国際ホテル
〒730-0032 広島市中区立町3-13 ☎(082) 248-2323

ホテルセンチュリー21広島
〒732-0824 広島市南区約場町1-1-25 ☎(082) 263-3111

http://www.toyokanko-g.co.jp/E-mail:general@toyokanko-g.co.jp

九州の南と北で

鹿兒島市 福岡市

城山観光ホテル
TEL.099-224-2211

博多城山ホテル
TEL.092-281-2211

代表取締役社長 保 太生 (昭和47年卒) http://www.shiroyama-g.co.jp



押見総長

か旅とかは立教の人間教育と一致する性質を持っており、立教が観光の問題に積極的に取り組んだというのほかに、建学の精神に通じたことである。旅とか観光は自分以外の他者を迎え入れる。単に相手をもてなし理解するだけではなくそれを通じて自分を理解し自分を高めていく。それが最近の若い人たちの関心ではないか。私の経験では、修学旅行で名所旧跡を見てその後的人生にはそれほどのインパクトはないが、バスガイドさんとの話や旅館での話が楽しかったといった人との交流や出会いがその後的人生に影響を及ぼしている。

気持ちをもった人が入ってきて、そういう気持ちをより高めているのかなと感心した。押見..人をもてなすというのは難しい人間行為であるが、これが今の時代に求められている。独り善がりではダメ。喜ぶだろうと思ってもそれ程単純ではない。自分の価値観の押付けではないのか、相手は何を求めているのか、自分の経験なり認識なりから離れて考えてみるということをやらないと出来ない。ホスピタリティは、ただ単に人に喜んで貰うのではなく、その背後に人間として凄いい行為を行っていることなんです。自分の価値観とか見方なりを善しとして相手に押しつけるのではなく、一歩退いてみるという姿勢こそが大事です。立教にはそういう学生が多いので一見すると迫力がないとかおとなしいとか云われるが、今の時代、大変貴重な精神を持っているということ。一番求められているのではないかと。今は、独り善がりでは自己本位の、自分がこうしたいと思ったら人も同じと思いついてしまっている(笑)。立教はそういう姿勢を嫌うというかそれはダメだと強く云ってきた大学で、その意味で立教の教育を時代が求めている。

観光学部の学生の特性と今後の教育の展開

清水..観光学が出来たのが六十七年。九八年に観光学部が出来て既に二回卒業生が出た



清水会長

押見..日本私立大学連盟が二〇〇二年十月に加盟大学の学生を対象に大規模な調査を実施した。立教の分析結果が中々興味深く、教育が充実しているという結果が出ている。観光学部の学生は、かなり明確な目的意識を持って入ってきていて、「やりたい仕事や勤めたい会社があって、そのための専門知識や技能を身につけたい」という項目を選択した学生が段トツに多い。所属する学部についてどうだったかの質問では良かったという回答が七〇%を超えている。自分の学生生活は充実しているという回答は、観光学部では七九・四%となっていてとても高い。もっといいなと思つたのは、視野を抜け物事を幅広く考える力がついたという項目では九一・九%。この項目はまさに先程云つたホスピタリティの本質で、独り善がりの考え方や価値観を押しつけてはダメなんだという姿勢の修得が出ている。

清水..対人関係の拡がりのよ

清水..対人関係の拡がりのよ

生全体ではそういう人間関係に対する関心が薄らいでいる。この調査は四年毎だが、「大学生活の中で大切だと思うことを挙げよ」という設問で、良い友人や先輩を得るとするのは、私大連全体で、一九九八年は四七・一%、二〇〇二年では四〇・〇%。立教も同じで、四年前は五一・三%、二〇〇二年は四三・七%。現在、興味関心を持っていることでは「友人との交際」は二六・六%が一三・〇%に低下している。これは要するにデータだが、関係性の重要さが見失われつつある。

観光学部の教育も時代の流れに合わせて変化していかねければならない。二〇〇六年度から教員を増やし、全体で専任の教員数が二名で、学生が一年生三二名となる予定である。今までは観光学だけだったが、仮称だが、旅行文化学科を新たに設ける。どういう学科名称がいいかはまだ最終決定はされていない。今の若い人たちは自己実現とか自己の成長を目指して人と人の交流を異なる世界で実現したいという特徴があり、それが、旅という形で表現されているのではないかと。

現在の世界は国際化、グローバル化しているが、国際的な視野は大切だが、やはりローカルな視点というのもちやんと持って他者との交流が来ないという側面を重視した学科をもう一つ創ることによって観光学部を一層時代の要請に合わせたものにできるのではないかと。従来の伝統も大切にしながら、更に新しい観光の現場に対応していくという学部構想が着々と進んでいる。これが出来れば他の大学の観光学科と異なる差異化が進む。そして私たちの計画では、現在、武蔵野新座キャンパスでは観光学部を含めて二〇〇〇名の学生がいるが、今後、心理系の新学部を創って武蔵野新座キャンパスを三〇〇〇名規模にし、学生関連施設を充実させて新しい立教の象徴にするという企画が進行中である。心の時代と云われているが、心の研究は心そのものを直接分析できないので、心の現れとか、心が受けとめているもの、自己表現なり認識していることを対象として捉えている。これを従来の心理学では科学的客観的に行動として捉えていたが、人間の自己表現の一つとして、例えばダンスとかヨガとか演劇とか全身を使った運動があるが、これを心の自己表現として捉える。それから、今の学生たちは物事を認識する時に機械映像を使って認識している。携帯電話にカメラが付いたのはまさに今の若い人のニーズで、何か事が起きると自分が目でみたことよりも映像の方を重視する。外界の認識や表現を写真とか映画のような機械映像で行っている。こういうことを含めた心理系の学部を創るのも面白いのではないかと。これが、観光とコラボレート出来たら、慶應の藤

沢キャンパス以上に斬新なキャンパスになるのではないかと。杉本..何か早稲田にも負ける、慶應にも負けるという風に思っていたが、とても心強い。荒井..ホテル研究会が昭和二三年の発足。我々の学生時代は観光の立教としてとても華々しかった。我々が最近感じるのは、立教はアピールが上手くない、昔からやっていながら、もう少し上手く展開出来ないかと思つている。押見..立教は、自分たちがやっていることが本当に良いところがある、そこまで押し付けがましく新聞などで広報は出来ないという気風がある。お金もない(笑)。荒井..これだけは絶対譲りたくないというのがある。立教の観光、観光の立教というのが目玉の売り物だから、全員が一丸となって打ち出したい。我々観光人からみるとその部分の使われ方が下手だ。押見..その辺りは分かっている力を入れてはいる。昨年、立教も知的資源活用センターを創っている。工学部、医学部がないから所謂工学系のベンチャーは出来ないが、観光学部という凄いい財産を持っている。それを地域に還元しなければならぬ。まだ計画段階だが、毎年、地方で校友の集いをやっている、それとタイアップして、いい場所地域フォーラムをやりたい。観光学部の溝尾先生は既に米沢でやっている。私たちは誰も知らなかった(笑)が、素晴

カプセルホテル ビジネスイン新橋 Business Inn Shinbashi 本館 / 〒 105-0004 港区新橋 4-12-11 TEL.03-3431-1391 annex / 〒 105-0004 港区新橋 4-12-10 TEL.03-3431-1020 http://www.rikkyo.com/bis/

東京の小さなホテル 上野のれん会加盟店 全日本シティホテル連盟 〒 110-0015 東京都台東区東上野 3-17-5 TEL.03-3834-1601 FAX03-3832-5424 金子 浩一 36年英卒

らしいフオーラムを実現している。それを一回限りでなく系統立ててやらない手はない。可能ならば、本年は九州でやって、次に他の地域に拡げていく。知的資源活用センターと観光学部が協力して地方の校友ともタイアップして、イベントを起こし立教の知名度を上げていく。

心の交流を活かす大学教育

杉本…二十余年間、観光・ホテルの仕事に携わってきたがそこで分かったのは、心の交流が出来た時が旅の満足度が一番高い。心の持ち様が現れる。形でやる観光から心の在り方に賭けるのは立教のマイナード。私は、今、所謂シニアマーケットに係る仕事をしていくが、その方たちが今一番求めているのは心。そして、やりたいことは旅。高齢化への対応は心と旅とをどの様に結びつけるか、立教の出番となる。



杉本副会長

押見…旅が大事というのは、今の日常生活の惰性から離れることが人にとっていいことだからだ。それは、日常生活から脱却して自分の生活を一寸振り返って見ることになる。

高齢者の方々が日常生活から離れて違った人と交流し、心の健康を高めることができればとても良い。

杉本…旅を通して交流の中で場が与えられる。押見…私はそれを大学の中で実現したい。今年には知的資源活用センターの他にボランティアセンターを立ち上げた。立教はボランティア活動については素晴らしい歴史を持っており、各部署で夫々独自にやっています、大学として責任を持ってそれをコーディネートすることはやってみようかと思いましたが、ボランティアは何かと云うと、社会奉仕だからではない。私がボランティアに期待しているのは、ボランティア活動をすると自分の思い通りにいかない他の人と出会う。この体験によって自分が成長出来る。そういう体験を大学として提供することが必要なのではないか。

杉本…これは観光業界だけではなくて、個々の交流が出来ないと。心のケアが出来ると減ってきているだけに、それが出来るよう心がける教育が大切。

押見…立教の建学の精神はそこにある。愛という言葉から表現すれば、愛というのは他者に対する尊敬と志向を云うのではない。相手のために唯奉仕するのではない。

荒井…今の若い人は対人関係で意外とマイナス思考、一方で自己実現のためにグローバルに出ていこうという人もあ。デジタルの時代、パソコン



荒井副会長

ンの性能も凄くて、電車の中で女の子が携帯電話だけを見ているのは異様な光景で、授業中もそんな状態。デジタルのネットワークの中で育っている人たちが、アナログの感覚がなくなると本心に怖い。

押見…両方のバランスがとれていない。どっちか一方はまずい。

荒井…人に接してナンボという感じ。その辺りが非常にドライ。島国だから外に出ていくという感覚もあり、自分に無いものを補おうと外に出ていくのは得意。しかし、迎えるほうは意外と上手くないから来日観光客は出国の四分の一、外に出るのが四倍も多い。手段とか道具がみんなコンピュータとよられていて、もっとバランスよくやって貰わないといけない。

押見…デジタルとのバランスを何処までとっていくかも求められている。

荒井…先日、日経の夕刊に山谷の外国人宿泊者の記事があった。山谷は労働者の宿のイメージがあったが、全部ではないが一部の宿泊施設では一〇〇室の内七〇％が外国人、或るホテルでは一〇〇％外国人。それもワールドカップ以降顕著になってきて、インタ

ーネットを見てどんなアクセスしている。或る意味ではイメージのよくない処だが、全く違和感なく若い人が泊まっているが、何時も安い処に泊まっている訳でなく、その時の目的によって違う(笑)。帝国ホテルに泊まっている人も或る場合は上野界隈の安い宿に泊まっている。こういうのを見てみると日本人は旅の仕方が下手。私たちは山谷に対する先入観が強すぎるのではないか。

大学の経営と今後の展開

清水…この辺りで大学の経営について少しお聞かせください。一つは、四月に法科大学院が立ち上がる。これも随分と競争が激しい中で、かなり厳しい審査があったと聞いている。

押見…法科大学院は経営的にどうかという事は後で話すが、私は立教の法科大学院の中身自体は随分自信を持って。まづ、立教の法科大学院が何を目標しているかという点、立教では特定の領域のスペシャリストを育て企業とか政府が重宝するような法律の専門家にするよりは、町医者みたいな普通の人が日常生活で遭遇する法律問題に対して、どんな問題でも親身になって協力していくという人の育成を目指している。ある人が、他の大学がスペシャリストの中のスペシャリストの育成を目指す中で、立教は建学の理念に従って、スペシャリストの

中のゼネラリストを育てるということか云っていた(笑)。これは法科大学院云々でなく立教というところがそういうところなんだ(笑)。

清水…その話を聞いて凄く嬉しくなった。正に立教のアイデンティティだ。

押見…この前、認可式があり法科大学院が認可されたが、改善せよという留意事項が付いた。或る大学は教師が老齢化しているから改善せよとかだったが、立教にとっては致命的な内容の留意事項は何もなかった。一つは、開校後に教員を採用する時はキチンと採りなさい。もう一つは、二年前新学科を創った時に見込みが立たなかったので定員を多くとりすぎているので、学部の定員を守りなさい(笑)。この二点です。法科大学院は定員七〇名に対して一三、五〇〇余人の受験者があった。

清水…二〇倍は凄いです。

押見…現時点では立教らしいが、これから難しい。司法試験が勝負だから二年後、三年後の司法試験で合格率が上がらなければ。ただ、経営的には年間七千万の大赤字です。清水…七千万というのは一年間としては大変だ。

荒井…少し授業料を下げたという話がある。

押見…当初、二〇〇万を予定していたが、文部科学省の方針で国立と私立との学費の差を三十万にしようというところで、文科省は概算要求で補助金を五十億を要求したが、この決定は十二月末となる。

全く貰えないことはないかと考え一六〇万位にしたが、国立との差を三十万にしないと受験生に対して説明がつかない。そこで学費を一二四万五千円に下げた。但し、文科省の補助金次第では二年目に学費の値上げもあり得るといふ但し書きを付けて公表した。

清水…優秀な先生に来てもらおうとすると素人目にも厳しいと思う。

押見…他の大学では法学部と法科大学院との関係が上手くいかないようだが、立教の場合は法学部の若手の先生方が意欲的に取り組み、法学部の支援もうまくいっている。しかし、通常の大学院は学部と一緒に同じ先生が兼任出来るが、法科大学院は一つの学部を創るようなもので兼任が出来ない。法学部の先生が抜けてしまう。法学部の教員補充もしなければならぬ。

清水…二年前に独立研究科が出来て、今度法科大学院が出来て、二〇〇六年に心理系学部が出来ると新しいものが二年毎に出来ていくんですね。

押見…今は変化は早いほうがいいが、新卒の施設関係もかなり補強しなければ。それから、法科大学院用に建物も造らなければならぬ。法科大学院の関連施設は昔の八号館、壊す前の一一号館の処で今日切りから工事が始まる。

清水…立ち上がったことだが、この新学部の発想というのは観光学部の現場化を嫌ったため、それとも大学の経営的なことから？

生活情報企業グループ

コミュニケーション・ネットワーク

毎日コムネット

平成9年12月
(株)毎日ツーリスト、(株)毎日ネットワーク、(株)毎日建物の3社が合併し、(株)毎日コムネットとなりました。

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-1
丸の内トラストタワーノース13F TEL 03-5218-8908

代表取締役社長 伊藤 守 (昭49観卒)
片山久子 (昭54史卒) 半田哲司 (平7営卒)
武田行幸 (昭57史卒) 八巻美奈子 (平10営卒)
永井康晴 (平7営卒)

広告ご協力募集

立教観光クラブニュース(本紙) 広告で
観光関連業界同窓のネットワークを
フルに活用してみませんか?

このサイズ(4cm×9cm)で
30,000円/1回 100,000円/4回

☆広告作成に必要な
ネタをいただければ
無料でお作り致します☆

連絡先: 本間良雄 (S52観卒)
090-3220-9765
FAX 048-224-0611

押見・大学にとっては武蔵野新座キャンパスを活性化して新たな発展をという大きな目標のもとで、新学部を構想している。

観光クラブとのコラボレーションで一層の発展を

清水・観光クラブの立場からは、岡本先生がずっと観光学

科をやっておられて、分かつ

てやった事だが、観光学部

に仕立てるに当たり観光ク

ラブも物・心両面でバックア

ップすると、例えば留学生への奨

学金の制度を創るとか、いろ

んな調査研究があれば観光ク

ラブのメンバーが進んで協力

するとか。今でも、そういう

関係は円滑にいつている。そ

れで学部を更に発展させるこ

とは我々にとっても是非上手

くいつて欲しいという思いが

ある。一方、クラブメンバ

ーサイドからは、今の時代に合

致した学生を輩出して欲しい

という思いはある。唯、学部

も所謂ビジネススクールでは

ないので社会人、ビジネスマ

ンを育てるのとは一寸役割が

違うと思うが、もつと観光ク

ラブのネットワークや組織、

人的関係を活用するムーブメ

ントがあってもいい。もつた

いないなという思いが最近し

ている。観光学部の先生方も

観光学研究の分野で深く掘り

下げる方は多いに思うが、

一部の社会人から来た先生は

ともかく、若い先生方で俺は

ビジネスには関心ない、研究

は研究ということで、社会一



般の目と実態とに少し距離があるのではと少し懸念している。その辺りは、荒井副会長ももつと観光クラブを使ってくればいいのにと云つてくれている。もし学部を観光学

れられなかったら意味がない。押見・立教もそういう方向に向かっている。観光学部の先生方が観光クラブとコラボレートして立教らしい観光の研究が出来るかが問われている。先生方もその辺りは十分に認識している。そういう声が十分に伝わっていないとしたら、今、内部で新しい学科のコンセプトなどについて検討しているの、今後、そういう発信が私でなく先生方から出てくると思うので協力して欲しい。清水・岡本先生は或る意味で観光クラブを上手に活用した

目的は世界の観光発展に寄与していくことと思うので、単に立教のということだけでなく、志を同じにすることが大事だ。清水・都内のホテルのGMをみても慶應や早稲田が殆どで立教は荒井さんと塩島さん位、あとは残念ながら他の大学に譲っている。一世代前の人は活躍したが、今は端境期か？観光学科或いは学部の卒業生がもうすぐのところまで来ているので、もう少し頑張つたらまたそういう時代が来ると期待している。

清水・それは、もう、是非。清水・今度、田町にサテライトキャンパスを創ると。押見・そう、独立研究科のビジネスデザイン研究科が創る。田町と同じビルには東工大が入っていて、そこコラボレートしていきたいという意図もある。池袋と反対の方向だが、そちらも開拓したい。清水・学生がまた都心に回帰しているから。押見・いろいろとアイデアを出していただければ検討する。知的資源活用センターも利用して貰って面白い試みをしてみたい。立教は総合大学だから観光学部とだけでなく、いろいろなる学部やセンターと協働していくと面白いことが出来る。清水・今日はご多忙中有り難うございました。また、このような機会をいただきましたと思います。立教の更なる発展を期待しています。

清水・それは、もう、是非。清水・今度、田町にサテライトキャンパスを創ると。押見・そう、独立研究科のビジネスデザイン研究科が創る。田町と同じビルには東工大が入っていて、そこコラボレートしていきたいという意図もある。池袋と反対の方向だが、そちらも開拓したい。清水・学生がまた都心に回帰しているから。押見・いろいろとアイデアを出していただければ検討する。知的資源活用センターも利用して貰って面白い試みをしてみたい。立教は総合大学だから観光学部とだけでなく、いろいろなる学部やセンターと協働していくと面白いことが出来る。清水・今日はご多忙中有り難うございました。また、このような機会をいただきました。清水・今日はご多忙中有り難うございました。また、このような機会をいただきました。清水・今日はご多忙中有り難うございました。また、このような機会をいただきました。

第一回料飲部会のご案内

料飲部会(原 国昭部会長)

では第一回会合を左記の通り三月一日(水)高田馬場のイタリアンレストラン「ブラットリア」にて開催いたします。当日は、第三二回国際ホテル・レストラン・ショー(東京・有明、東京ビッグサイト)と第二九回国際食品・飲料展(千葉・幕張、幕張メッセ)の開催期間中にあたりますので、この機会を活かして、料飲部会会員のみならず観光クラブ会員相互の生きた情報交換と親睦の場として皆様のご参加をお待ちしています。なお、当日は講演(演題検討中)も予定されています。

記

日時・平成一六年三月一日(水) 受付・一八時・懇親会・一八時三〇分〜二〇時三〇分(予定)、会場・「ブラットリア」東京都新宿区高田馬場一―二五―三〇 フジテック本社ビル、会費・五五〇円/一名、出欠申込及び問合せ・事務局 阿部行信(東京食料センター(株)) FAX・〇三―三五二―二三三三 e-mail:tokyofoods@hotmail.com



平成 16 年度観光クラブ総会 日程・会場決定 1月19日開催の理事会において本年度の総会の日程・会場が決定しました。 7月8日(木) 17時より ホテルニューオータニ



運営基金 奨学金 寄付者リスト 平成15年9月〜平成15年12月 計34名 ↓ 一六六,〇〇〇円

印刷部門 (Printing) オフセット印刷。書籍・名簿・チラシ等、低価格・高品質・小ロット承ります。プリプレス部門 (Pre-press) パンフレット・書籍・雑誌のデザイン版下制作 Macintosh・Windows DTP入出力 入力から編集・出力までOK! HTMLファイルの作成、既存データの加工、スキャン、画像の修正等承ります。 スポーツライフ社 〒332-0012川口市本町4-14-8 TEL. 048-224-7556 社長 本間良雄 S.52年観光卒 090-3220-9765

24時間風呂 伊勢志摩国立公園/鳥羽浦 政府登録国際観光旅館 湯亭 男湯 女湯 〒517-0011三重県鳥羽市鳥羽1丁目 TEL.(0599)25-2500(代) FAX.(0599)26-2552